

科目名	専門特殊講義 I (知財戦略論)
	著作権制度
教員名	杉山 務

【授業の内容】

著作権の保護のあり方、保護される著作物の利用の仕方を検討し、文化の発展への寄与を目的とする著作権法の役割を考え、無形の財産権の保護がいかになされているか、またいかにあるべきかを検討します。

【到達目標】

著作権に関する具体的事例について、自分の考えを表明し、論理的に説明できるようになります。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 知的財産について概観
- 第2回 著作権法概観：著作権法全体の概要を著作隣接権も含め検討
- 第3回 著作物：思想又は感情を創作的に表現したもの
- 第4回 著作物の例：言語、音楽、舞踊又は無言劇、美術など
- 第5回 著作者：共同著作、職務上の著作、映画の著作について検討
- 第6回 著作者人格権：公表権、氏名表示権、同一性保持権について検討
- 第7回 著作物と著作者まとめ <小テスト1>
- 第8回 著作権、保護期間：内容とその効力の及ぶ範囲を検討
- 第9回 著作権の制限：私的使用など権利者に無断で著作物を使用できる場合を検討
- 第10回 著作物の教育利用、営利目的としない上演等
- 第11回 権利侵害に対する救済
- 第12回 権利の活用：権利の譲渡、利用許諾と出版権設定、担保権設定、裁定
- 第13回 著作隣接権：実演家、レコード制作者、放送事業者、有線放送事業者
- 第14回 著作権侵害訴訟 <小テスト2>
- 第15回 最新著作権事情とまとめ

【授業の進め方】

質問を交えながら授業は進みます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

教科書は使用せず、スライドウェアの使用と適宜レジュメを配布し利用します。

【参考図書】

- ・著作権法入門〈2014-2015〉文化庁 著作権情報センター ¥2,300
- ・著作権法 茶園成樹(2014.4) 有斐閣 ¥2,808

【具体的な評価方法・基準及び評価比率】

定期試験 50% 授業内小試験 20% レポート・課題 20% 受講態度 10%

特記事項

レポートは判決を要約した報告書

【履修上の心得】

著作権法は、ネット社会の浸透を背景に、新たに発生する知見と社会の変化に相応しいものとするため、ほぼ毎年改正が行われ、学問的にも実務的にも変化の激しい分野ですから、履修には自分で学び他者に学ぶ心構えが重要です。

【備考】

知的財産制度が実社会でいかに利用されているか、活用されているかを、受け身でなく主体的に探求することにより、卒業後の社会生活において知的財産を専門とするか否かに係らず役立つでしょう。